

春の息吹とともに

# 民家・春の景色の中に



早春の水路（埼玉県川越市新河岸） 1982年

1999年4月3日[土]→6月27日[日]

開館時間=午前10時—午後6時（入館は5時30分まで）  
休館日=毎週月曜日（ただし祝日と重なった場合は翌日）  
観覧料=一般200円（160円） 大高生150円（120円） 中小生100円（80円）  
65歳以上及び障害者の方100円（80円）（ ）内は20名以上の団体料金

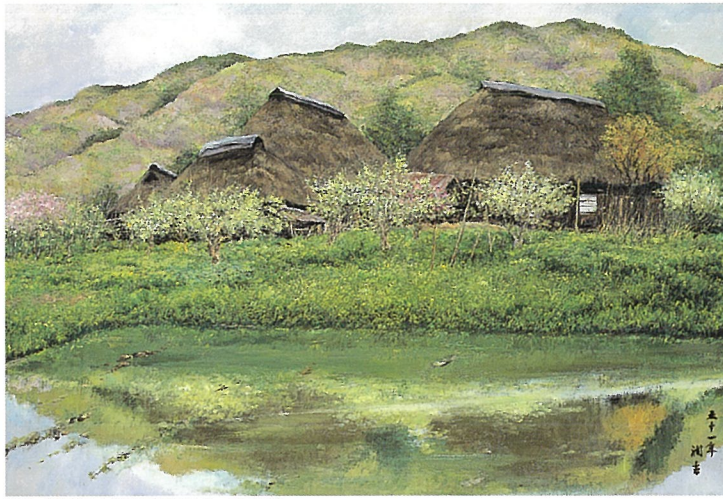
世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL.03-5450-9581

# 民家・春の景色の中に

春の息吹とともに



春映(岩手県上閉伊郡宮守村) 1976年



叢中の梅(埼玉県東松山市神戸) 1987年



梅の中の家 制作年代不詳



岳麓好日(長野県北信安曇郡白馬村塩島) 1969年



田麦俣にて(山形県東田川郡朝日村田麦俣) 1963年

向井潤吉先生の画業を代表する民家作品の数々は、多くの人々に親しまれております。民家をモチーフとしながらも、作品にはふんだんに自然の美しさが描きこまれており、その表現はきわめて優れた写実表現によって臨場感にあふれ、より一層、作品の魅力を高めているように感じられます。

向井先生は明治34年(1901)、京都に生まれ、そこに息づく日本の伝統的な文化の香りにふれながら、またその反面、進取の気風をもった土地柄の中で育ちました。

関西美術院で徹底した写実表現の基礎を学ばれた後、上京されてさらに勉学を重ねられ、戦時中には、陸軍の報道班員として従軍し、戦地を巡りながら記録画の制作にあられました。戦時中より、内外を問わずに人や文化が戦火にさらされたことに対して哀惜の思いを抱かれた先生は、戦後、民家というモチーフに注目されるようになりました。

民家という日本の伝統的な住まいは、戦後の急速な時代の流れの中でその姿を消していくことになりましたが、先生が民家というモチーフに着目され、そしてこのモチーフをライフワークとして選ばれたことは、今日において、たいへん興味深いことと思います。

草屋根が素朴な味わいを醸し出す民家の姿は、日本固有の風土の中で、自然と人の手によって育まれてきた一つの文化の形であると言えます。人間の生活と深くかかわってきた民家が、時代の流れの中で急激に失われていく様子は、向井先生の心の中に名残惜しく思う心を、つよく抱かせたのではないのでしょうか。

春の息吹とともに、自然が生きてきた表情をたたえるこの季節、民家の姿もまた、美しい自然の景観と溶けあいながら、人が自然と共に生きていた懐かしい時を彷彿とさせることと思います。



遅れる春の丘より(長野県北安曇郡白馬村北城) 1986年

世田谷美術館分館

## 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

### ●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】駅西口 下車/徒歩10分  
 東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車/徒歩17分  
 東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分  
 東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分  
 東急バス(渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分  
 東急バス(渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

